

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	大阪府	市町村名	東大阪市	大学名	
派遣日時	令和 7年 7月 15日(火曜日) 9:30~12:00 ※本報告書とは別に、派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細(休憩時間も明記)が分かる資料を添付してください。				
実施方法	○派遣 / 遠隔 ※いずれかに○をつけてください。				
派遣場所	東大阪市本庁舎 18階会議室(東大阪市荒本北一丁目1番1号)				
アドバイザー氏名	村松 好子 先生				
相談者(受講者)	学校教育部人権教育室 指導主事6名 東大阪市教育委員会 教育次長1名 ※個人名の記載は必要ありません。				
相談内容等	<p>●日本語指導が必要な児童生徒が年々増加している本市における日本語指導体制の充実を図っていくうえでの今後の具体的な施策について</p> <p>●海外からの直接編入児童生徒の「サバイバル期」における支援体制の在り方について</p> <p>▶センター校の設置に向けて</p> <p>どのような準備が求められるのか 他市町村(同規模)の事例等を聞かせていただきたい</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">・市内全域を網羅した日本語指導体制の充実・各学校の指導体制の充実・日本語指導加配教員と巡回校との効果的な連携・日本語指導が必要な児童生徒の日本語能力の見取り・教職員の専門的な日本語指導力の向上・系統立てた多文化共生教育を含む日本語指導の計画・実施・海外からの直接編入児童生徒に対する「サバイバル期」の支援体制 <p>※自治体で捉えている課題等もお書きください。</p>				
派遣者からの指導助言内容	<p>◆東大阪市の現状について</p> <ul style="list-style-type: none">・加配教員(24校30名)を対象に年間9回の連絡協議会(+府の研修)→充実している 学びの場の確保・進学率も高い。ただ、課題は高校に入ってから。 <p>◆日本語指導に関して確認</p> <ul style="list-style-type: none">・学校は個々に解決していくもの→行政としてどう対応していけるか・教育振興基本計画の中で示されている項目(グローバル人材の育成等)・定住化する子どもたちのことを考える。共生社会の一員として。・高校進学も含めて、キャリア支援の充実を				

◆散在地域、少数在籍校の困り感

・市町村の支援体制

…特化した担当部署を設置しにくい。

外部指導者、外国人関係機関が少ない。予算確保が困難。

・学校の支援体制

…受け入れ態勢が整備しにくい。短期間での指導者の工夫。

「たくさんの方に経験してほしい」という思い

⇒「蓄積してきたノウハウをいかした継続的な支援を進めたい」という思い

・教員等の資質

…日本語指導を行うための知識や経験の不足。子どもに関する情報不足。

・研修内容等

…担当を離れると、学ぶ機会がなくなってしまう。

管理職の意識・理解不足

⇒T市では先生方自身で研修会を実施し、これまでの指導案を保管している。また、アドバイザーを確保し、定期的な巡回や体制へのアドバイス等を行っている。

◆課題の整理（□本市が提示した課題）▶講師が整理（言い換え）してくださった表現

（□市内全域を網羅した日本語指導体制の充実）

▶市内のどの学校でも同水準の教育を受けられる

（□各学校の指導体制の充実）

▶在籍児童数や加配教員等による体制の格差

（□日本語指導加配教員と巡回校との効果的な連携）

▶巡回先での連絡調整

（□日本語指導が必要な児童生徒の日本語能力の見取り）

（□教職員の専門的な日本語指導力の向上）

▶研修を全教職員対象に

（□系統立てた多文化共生教育を含む日本語指導の計画・実施）

▶日本語指導の年間指導計画の作成

（□海外からの直接編入児童生徒に対する「サバイバル期」の支援体制）

▶年度途中の編入対応

◆センター校（初期日本語指導教室）の事例について

<事例1>

午前…市内の1か所で個の日本語習得状況に応じた日本語指導を受ける

午後…在籍校へ戻り、在籍学級で過ごす

・市教委担当者、日本語指導員、母語スタッフ

・市内巡回バスを利用⇨教室等の登下校が多くの自治体で課題

・午後に在籍校に戻るため、教室終了後の受け入れがスムーズ

・学校生活とつながる日本語指導が必要（サバイバル日本語等）

<事例 2>

拠点校内（小学校・中学校各 1）に設置 午前 8 時 20 分～午後 2 時 50 分

- ・ 室長（教員免許）、指導員（日本語・母語：専門教育を受けた者又は指導経験者）
- ・ 初期の日本語教育、学校生活適応指導、その他適応に必要な支援
- ・ 拠点校内に設置しているため、児童生徒にとっては生活の場が同じであり、教室終了後、円滑に学校生活を送れる。

<事例 3>

外国人就学相談窓口が教育相談センターへ情報共有

- ・ 教育相談センターにて、コーディネーターや拠点校日本語指導担当教員による面接により、拠点校・日本語教室（配置校）・在籍校のどこへ進むかを判断

<その他の事例>

通級日本語教室以外にも、拠点校にも設置している自治体

日本語指導の団体に委託している自治体もある

◆センター校配置のメリット・デメリット

<メリット>

- ・ 専門性のある指導者、支援者の存在⇒効率的・効果的な支援及び個に応じた支援

<デメリット>

- ・ 安全性の確保（交通時等）
- ・ 教科学習の機会の確保減
- ・ 通級できない子への支援
- ・ 在籍校とのつながり

⇒センター校では、子どもたちがいきいきした様子がみられる。

保護者もネットワークが広がり、安心感につながることを期待される。

◆今後の展望

- ・ 「長い人生を考えた支援を」→各部局と連携しながら進める
- ・ 保護者の支援を大事に
 - …就学前の子どもとその保護者を対象にプレスクールの開催（10 回程度）
- ・ 高校入試に向けたガイダンスの開催、活用
 - …中学生だけが対象ではない、その前から知る機会を
- ・ スーパーバイザー（加配教員へのアドバイザー）の常勤化
- ・ 地域人材の活用
 - …地域によっては企業が日本語指導をおこなっているところも
- ・ 教材、教具の蓄積
 - …個々でするのか、市としてするのか

※項目のみの羅列ではなく、相談内容に対する助言内容を詳細に御記載ください。

(様式 3)

<p>相談後の方針の変化、今後の取組方針等</p>	<p>■センター校の設置について、今回助言いただいたことをもとに検討を重ねていく。バスの利用や人件費等の予算の面だけではなく、渡日が重なる時期（例年 4・5月に直接編入が約 30 件前後）の対応等の課題もあるので、他市町村の事例をもとに綿密に話し合いを重ねていく。</p> <p>■プレスクール（受入前年度に 10 日間ほど体験期間を設ける）について助言をいただいたが、地域によって実施可・不可のちがいが考えられるため、実施については検討を重ねていきたい。プレスクールに準ずるものとして、東大阪市の学校の説明資料を多言語版として作成し、可能であれば動画視聴用の二次元コードを添付するなど、子どもや保護者の安心感につなげられるよう取組みを検討していく。</p> <p>■日本語指導理解の深化および指導力向上のため、さまざまな形式で全教職員が学び続けられる場を他課室と協議・連携しながら展開していく。</p> <p>■教材、教具、指導案等の蓄積やスーパーバイザー等、専門的な担当者の継続した支援の在り方等についても検討を進めていく。</p> <p>※相談者、受講者の感想だけではなく、申請者としての「相談後の方針の変化」や「今後の取組方針」等を記載してください。研修の開催等を次年度以降も検討している場合、どのように自治体において実現させていくか等についても記載してください。</p>
---------------------------	--

1 枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。